



摘みたてイチゴに笑顔のこども園つみきの園児と農業支援員

担い手研修農場が摘みたてイチゴをこども園2園に贈る

新規就農を目指す地域おこし協力隊の農業支援員8人が7月28日、宮の森こども園とこども園つみきに摘みたてのイチゴを届けました。翌日、両園でイチゴジャムに加工され園児に振る舞われました。

イチゴは、程よい酸味の「すずあかね」。宮の森こども園に2kg、こども園つみきに3kg届けました。園児たちは、甘い香りに鼻をくすぐられて「おいしそう」「早く食べたい」と大はしゃぎ。給食でパンに塗って、きれいに平らげました。

上厚真地区で「あつまル市」開催

上厚真在住の村上朋子さんらが中心となり、地域のつながりで震災の復興を紡ぐ目的で昨年発足した「あつま元気クラブ」は7月31日、上厚真市街地で「あつまル市」を開き、来場者との交流に華を咲かせました。

地元をはじめむかわ町や恵庭市、白老町、安平町の協力者がテントを建てて、手作りのアクセサリや新鮮な野菜などを販売しました。

また、震災直後からボランティア活動をしている苫小牧市在住の松村直幸さんは、動画を撮影して全国の仲間にイベントの様子を発信しました。



採れたての野菜などを買い求める来場者



食中毒の予防を喚起する関係者たち

食品衛生強調月間で食中毒予防を喚起

食品衛生強化月間（8月31日まで）にちなみ、苫小牧保健所や苫小牧地方食品衛生協会の関係者4人が8月1日、宮坂町長に食中毒の未然防止を呼びかけました。

来訪者は、同保健所生活衛生課の橋本潤子課長、同協会の福原裕会長、同協会厚真支部の下司義之支部長、同支部事務局の小寺せい子さん。宮坂町長は「あつま田舎まつりも無事に終了しました。食中毒を起こさないよう慎重に対応します」と語りました。

低気圧による大雨で町内に影響

発達した低気圧に伴う大雨の影響で、町内は8月15日夜から大雨に見舞われ、翌朝6時8分には洪水警報が発表されました。町内全域で河川が増水して一部で氾濫。また、流出土砂が道路をふさぐなどの影響があり、町は17日7時まで厚真町災害対策本部を設置し警戒を続けました。

人的被害などの影響はありませんでしたが、高丘地区と本郷地区の一部で避難指示を発令し、避難所を開設。このうち、高丘地区の住民7世帯12人が厚北地域防災コミュニティセンターならやまで一夜を過ごしました。また、複数箇所道路の冠水や林道被害、農業被害が確認されており、町では復旧への対応を続けています。



水かさが増した宇隆地区のウクル川

厚南中学校教諭の山本有紗さん 青年海外協力隊でパラオ共和国に派遣



出発あいさつに訪れた山本有紗さん

厚南中学校の英語科教諭の山本有紗さんが、独立行政法人国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊員（現職教員特別参加制度）としてパラオ共和国への派遣が決まり、宮坂町長と遠藤教育長に7月21日、出発のあいさつをしました。

富良野市出身で、海外での活動も夢の一つでした。大学時代に取得した保健体育の教員免許を生かし、日本の小・中学校にあたる現地の学校で、体育指導やカリキュラムの改善などに取り組みます。滞在期間は1年7カ月。

山本さんは「厚南中学校に赴任させていただき1年になります。ふるさと教育で学んだことをパラオでも生かしたい。コミュニケーションを取り、帰国後は町や北海道に還元したいと思います」と抱負を語りました。宮坂町長は「仕事にとどまらず、人の輪を広げて欲しい」と話し、遠藤教育長は「子どもたちの夢や目標になるよう、活躍を期待しています」と激励しました。

道内初の日本サーフィン連盟（NSA）公認大会「厚真町長杯」が7月24日に浜厚真海浜公園で開かれ、全国から集まった約80人のサーファーが、恵まれた天候のもとで熱戦を展開しました。

会場では、競技歴を問わずに楽しめるサーフィン大会と、地元の農家や飲食店によるマルシェ、けん玉やスケートボードの体験コーナーなどを融合したイベント「meet up ATSUMA（ミートアップ厚真）」（実行委主催）も同時開催され、浜辺は道内外から訪れた大勢のサーファーや観客でにぎわいました。

宮坂町長は「豊かな自然が残る浜厚真の海岸は、厚真町の自慢です。大会やイベントを通じて、厚真のファンになっていただきたい」と、来場者に呼び掛けました。

浜厚真海浜公園でサーフィン大会「厚真町長杯」と「meet up ATSUMA」



厚真町長杯メン・マスタークラス優勝の松倉円選手



全国から強豪チームが出場した北の大地ユースサッカー大会

浜厚真野原公園サッカー場で「北の大地ユースサッカー大会」

道内外の高校サッカー強豪校やクラブチームなどによる「第1回北の大地ユースサッカー大会」（実行委主催）が、7月25日から浜厚真野原公園サッカー場で開かれ、ハイレベルな戦いを繰り広げました。

大会は、U-16・U-18男子と、U-18女子の3部門で行われ、36チームが出場しました。

選手たちは、管理が行き届いた緑色のピッチで、巧みなドリブルや流れるようなパスを繰り出してゴールを狙いました。